

大妻コタカ著

買物の上手下手



591

089

591  
089

買物の上下手

大妻コタカ



婦人講座

第七十二篇



財団法人  
社會教育協會

目次

|                                                                                |   |
|--------------------------------------------------------------------------------|---|
| 一、家庭豫算の要諦……………                                                                 | 一 |
| 主婦は大蔵大臣——實收入を基礎——豫算と一家の興廢——夫は<br>收穫、主婦は支出                                      |   |
| 二、眞の買物上手……………                                                                  | 六 |
| 買物の仕方——デパートの買物——専門店や小賣店の買物——大<br>道の買物——無理買は破産の基——現金買ひの得——掛買の損——<br>——欲しい物も三日待て |   |
| 三、買物の秘訣……………                                                                   | 三 |
| 掘出し物の買ひ方——纏つた買物の仕方                                                             |   |
| 四、日用品の買方……………                                                                  | 三 |
| 買ひ置きは不經濟——家具什器の買ひ方——國産品愛用——有利<br>な買物は増収と同じ                                     |   |



# 買物の上手下手

大妻コタカ

## 一、家庭豫算の要諦

主婦は大蔵大臣

「一家の大蔵大臣は主婦である。」しつかりと、ゆるぎなき豫算をたてませう。かつて岡田首相が「豫算の事は高橋さんがあるから大丈夫だ安心だ」とか申されたさうであります。

1  
一國の大蔵大臣も、一家の主婦も同様でありまして、國民からも、一家の者からもあれにまかせれば安心だといはれるやうな、大臣であり、主婦でありたいものであり

ます。

どんなに名豫算を立て、どんなにそれを實行し得る手腕がありましても、それに徳望が備はらなければ、人々からの信用は望まれません。

一國の大藏大臣は勿論、一家の主婦も常にこの徳望を一身に集め得るやう、日常の修養による積徳が必要であります。

「家のお母さんに委せて置けば大丈夫だ」

と一家の者から信用を受ける身となつて初めて、主婦自らも自分の所信を押し通し得るのであります。でありますから私は堅實なる一家の豫算を建てるには、先づ家族から「信用を得よ」と叫びたいのであります。折角苦勞してたてた豫算も「なあにお母さんは、いい加減な事をしてゐるのであらう、帳面の上の豫算だから」等といはれたら、それこそ一家の豫算は、いい加減なものとして、家族の誰もが相手になつてくれません。それでは、主婦の苦心も何の効果も上りません。

「お前の建てた豫算ならば大丈夫うまく行くだらう。皆でしつかり實行して、實績を

擧げること家族一同が努力しよう」

と家長の力添へでも貰はれるやうでありましたら、どんなに主婦もうれしいことか知れません。この

「大切な信用」

を先づ得ることが肝要なことでございます。

### 實収入を基礎に

我が家の収入を基調として、ゆるぎなき豫算をたて、生活の標準をたてなければならなりません。そして一度たてた豫算には一家の者が協力一致して、その實現に努力せねばならないのであります。主婦一人豫算の實行に汲々としてをりましても、他の家族が無關心のやうな態度では、さつぱり効果は上りません。

「豫算以外に剩餘金を出す必要はない」よく世間ではこれの豫算があるが、もつと儉約して豫算を餘してやらう等と考へて、それを實行する向きをよく見受けますが、

これは無意義なことであり、餘るほどの豫算ならば、初めからもつと切り詰めた豫算をたてて置けばよいのであります。自分の建てた豫算から剩餘金を出したりするのは、つまり自分の正確を裏切り、自分を信用しないことになります。

「我、我を信ぜずんば人何ぞ我を信せん」

等と申したくありません。でありますから、一度たてた豫算に對しては飽くまで、忠實な實行者であつてほしいものであります。

豫算の超過は、經濟生活の破綻の原であります。

### 豫算と一家の興廢

「思慮なき形式の豫算はなくもがな」であります。

目あてのない仕事は盲目であります。私共の日常の雑事でも、それ相當大なり小なり目指す目的を定めて、それに向つて邁進してをります。

一家の經濟にも豫算の確立が必要であります。豫算のない生活は、暗夜に羅針盤を

失つた船舶のやうなものであります。何處へ漂ひつくかは勿論、何時さかまく怒濤に見舞はれて、海底の藻屑となるかも知れませんが、豫算なき家庭の經濟は恰度この船舶のやうであります。

主人が病氣で倒れ、つぎつぎに家族の病氣等に見舞はれましたら、それこそ何に頼りませう。少しの豫備もなく、その日その日の暮しにもさしつかへる状態に陥るのは明かであります。

「治に居て亂を思ふ」

と申しますが、日常の心掛によつて、非常時の救済にあてねばなりません。一家の大黒柱が倒れて、一家族が路頭に迷はなければならぬことは、近代世相の珍らしくもないものとされてをりますが、ほんたうに嘆かばしいことでもあります。

### 夫は收穫主婦は支出

一家の主人は、夫々の職業に従事して馬車馬の如く一目散に働き續けてそのあとを

さへ振りかへり見る餘裕を持たないほど、眞剣に働き續けてをります。

月給袋や賣上金を、ボンとなげ出して

「さあ今月はこれだけである、うまくやりなさい」等と申されるのが大方の男子の方であると思ひます。

主婦はかうした、あてがはれた収入を以て、一家の支出を上手に切り盛りする大役を引きうけてをる譯であります。どれ程澤山の収入がありましても、主婦の支出の才能がとばしかつたらたまりません。どここの奥様は「湯水のやうにお金を使ふ。」といふ事はよく聞くことでありますが、いくら有りましたが、その使ひ方を誤つてをりましたら、際限がありません。でありますから、主婦はどこまでも上手な消費者であつてほしいものでございます。

拾圓のお札一枚、その使ひ方で大分價值が違ひます。

毎日のお總菜の買出しにしても、上手と下手とでは、家計にどんなに影響するかわかりません。例へば毎日一圓の總菜費を見積る家庭であるとして、これを上手に切り

盛りする主婦と上手でない主婦との懸隔は大したものでありませう。

A家の奥さんはコースを五十匁五十錢、茼蒿五錢、葱五錢、菠薐草五錢といった夕食の準備と、一個五錢の蜜柑三個と、おやつ用のお菓子二十錢用意して一圓を費つたといひませう。

B家では一圓の同じお總菜費を以つて細切肉百匁三十八錢、野菜物三種十五錢、蜜柑十錢、お菓子二十錢、淺草海苔十二錢の豫算で尙五錢残ります。そして調理された御馳走の甘さ、榮養價を考へますと、少しも差違がないばかりか、B家の方が分量の點から遙かに勝れてをります。

「細君が前掛に包んで持ち出す額は、夫が收穫車で運び込む額よりも多い」とか、

「千丈の堤も蟻の通ふ穴から潰える」

等とも申します。ほんたうに十錢二十錢の毎日僅かの支出も侮り難いことを、熟々考へさせられます。

或洗濯屋に、一軒位のお得意、しかも僅かしか毎月仕事を出さないやうなお得意に、

毎日毎日せつせと足を運んで馬鹿らしいでせう、一軒ぐらゐりだつてよいでせうと申しましたら、當の洗濯やさんは、むきになつて

「いいえ奥様、その一軒のお得意を失ふことが、私共の店の生命に係ることなんで御座います、一軒の御得意様がほんたうに大切なんでございます」

と申したことがございます。

ほんたうに何事によらず、小なりと思ふことが大事中の大事よりも大切なんでございます。

「一錢を笑ふ者は、一錢に泣く。」

とか申します。この小さな支出を、掌る主婦の責任の重大さを、つくづく思はせられます。

## 二、眞の買物上手

どこそこの奥様はお買物が上手だ、あんな掘り出し物をされて、お羨やましいこと

等と近所の奥様のほめ者になるやうな奥様とはどんな方でせうか。

世間で申す買物上手は、ただお安い物を買つたといふ意味の時もありますし、値段の割合に品物がよくつて、ほんたうによい物である時もあります。

一年に一度や二度デパートの見學に出かけたり、欲しい物、入用な物があるから、サア買はうと思つたりしたのは上手な買物は出来ません。でありますから買物上手になるにも矢張り机上の空論で、かうすれば上手に買ふことが出来る、あそこの店はいい物があるといふやうに口で申してゐても、それは實際の買物上手とはなり得ないのであります。

上手になるにはあの店この店と相當歩いてこそ、他店との比較も出来ますが、それだからといつて必ずしも品のよい安い物を購ふことが出来るとは申されません。

かく考へて見ますと、眞の買物上手といふ言葉の意義もあまりはつきりせぬものであります。

安い物を買つて來た、上手な買物をしたと、デパート歩きをして二反も三反も買ひ

込んで得意になつてをられる奥様も買物上手でせうし、又手間や足代を餘り拂はないで、比較的よい品物を買はれた方も買物上手と申されませう。どんなに買った物が安くても、二日も三日もデパート歩きをして、やつとの事で探し求めて買ったのでは買物上手といはれません。

時間の節約を上手にして買ったものは、少々位高いものでも、それは或意味からは、買物上手といふことが出来ませう。また

「いくら上手に買った、安く買った等と申しましても、それを上手に使はなくては、つまりその品物を生かして使ふのでなくては買物上手といはれません」  
等と申される方もございませう。

では私は思ひます。眞の買物上手とは、お値段も安く、品物もよく、足代もかけずに、時間もかけずに、そして役立つ品物を手に入れることなのでせう。

棚ざらへや藏拂ひに命がけで出かけ、足を摺りこぎにして、抱へ込んで来た幾つかの布も、上手に使へば随分お安い上手な買物となります。

例へばあのデパート等の賣出しに、七尺五十錢、七尺四十五錢等の紅絹を五布、六布買ったといたしますと、一反に見積ればほんたうにお安い物でございませう。一反三圓以上四圓もするやうな紅絹が二圓位で買はれることとなります。

しかしこれ式の上手な買物と思ひませうが、今必要であるからと申しましても、直ぐにさうした物を買ふことは出来ません。矢張りふだんからの心掛でなくてはなりません。

さうしますと、買物にも先を見越して、これこれの時期には、このやうな品物が必要であるといふことを豫想して買ひ求めて置くことが大切であります。世の中には「無用の用」といふことがあります。一見無用に見えましても、實は大層有用である場合もあります。差當つて有用でない買物も、他日大いに役立つことがあります。このデパートの藏拂ひ、棚ざらへ等に上手な買物をするものが、無駄でないことも往々あります。

## 買物の仕方

買物の仕方にも色々の方法があります、お金を出す方面からの方法から申しますと、先づ現金を以てする現金買、帳面や注文で現金を出さずにする掛買等もございすし、又買ひ方の方法としては、デパートでするもの、小賣店でするもの、市場で買ふものや又繁華な市街によく見受けまゝ大道商人から買ふ等色々の方法もございす。

日用品等毎日々々買ひ出しに行くなんて見つともない、お電話一つで何でも入用なものをちやんとお届するし世話がないのになどと、お邸の奥様方や、上品ぶる奥様達には申されるのでございす。又商人としても、一々お金を頂くよりも、まとめて月末に頂いた方が手數も省けますから、掛買の方を喜びます。

「御用聞きの小僧や、番頭の手間料は何處から出るでせうか」お考へ下さい。勿論商品にその手間料をかけておなくては、商人の立場がございせん。つまりその人件税はお得意様が拂はされてをります。

又商人として掛買を喜ぶ一つの理由は、掛買ですと手許に現金がなくとも、氣前よく買ひ込むことが出来るのを重寶がる人情を、覗つたものであります。

「無い袖は振れぬ」

と申しますが、掛買はつまり無い袖を自由に振られるのでございすから、つい無駄な買物を平氣でさせられるのです。

「新家庭は現金買が實行し易い」

夫婦きりの新生活を初められた様な方の家庭では、現金買も、掛買も最初の夫婦の心組から如何様にも出来得るのでございすから、新家庭は須く「現金買の實行者であれ」と叫びたいのでございす。

しかし最早家庭を持たれて、數年も世帯を過ごされたやうな方の家庭で、今迄の掛買を現金買に改めようとするには、餘程の覺悟と努力とが必要でございす。それは一ヶ月分の現金を他に流用することが出来なくなるからであります。現金買ですと、今から向ふ一ヶ月間に使ふだけの現金の餘分を、先づ手許に握らしめて居らなければ

なりませんが、掛買ですと毎日のこの費用に現金を出す必要がなく、つまり餘分のお金の手許にある様で、ついこれを他に流用したくなるのでございます。それでありますから常分はともゆつたりとするのですが、これを現金に改めることは却々むづかしくなる譯でございます。

假りにこの掛買に支拂ふ金が、一ヶ月五十圓としますと、結局五十圓也の貯金が出来たことになります。又反對に現金買を都合上掛買にいたしますと、この掛買の分だけ、合理的の借金になる」譯であります。こんな次第で現金買は一家經濟の堅實味が出来第一歩であります。

現金買はよい、掛買は損であるといふことは、いはずとも百も承知してゐながら實行の出来ないのは、掛買から現金買にする當座の凌ぎが出来ないためであらうと思ひます。しかし堅實なる家庭生活を營うとする主婦は、永久に現金買を勵行して、少くとも一ヶ月分の収入だけはいつも手許に残す餘裕があるやうに心がけることが大切であります。

### デパートの買物

「僕のこの鉛筆、〇〇で買ったんだよ」

「わたしのこの消ゴム△△△」

等と、小さな小學生さへも大デパートのマークの這入つてゐるのを大きな誇としてをります。またデパートは重寶であります、便利であります。貴金屬類からお芋や大根等の蔬菜類までも、あらゆる物が一ヶ所で求められますから、呉服屋に行き、八百屋に行きとあちらこちらを駆け廻ることを思ひますと、どんなに有難いか知れませんか。今デパートでする買物の特點を擧げて見ますと、

- 一、あらゆる一切の品物が取り揃へられてゐること。
- 一、品物が豊富であること。
- 一、諸々を駆け廻る時間の節約が出来ること。
- 一、無理や義理で買物をしなくてもよい。

- 一、比較的安心して買ひ求めることが出来る。つまり確實な品物を得られる。
- 一、選擇の自由が得られる、懸引の必要がない。
- 一、其の日の呼び物(をとり品)奉仕品を目當てに買物が出来る。
- 一、冬物は春先に、夏物は夏の終りに、即ち秋口にといった風に、手廻しよくその時々の大棚ざらへ等を利用出来る。

こんな重寶や便利がありますので、都會人は、デパート、デパートと押しかけるのでございませう。甚だしいデパートファンは、木炭一俵お芋一貫匁の買物でも、デパートへわざわざ行きかねまじい有様です。まさか左様な極端な方もございますまいと思ひますけれど、時間的に恵まれてゐない都會人は矢張り、買物に重寶なのはデパートなんでございませう。

殊にあの大賣出し、はんば物市、よりどり市、棚ざらへ、藏拂ひ等に押しかけて、掘り出し物をされた経験のある人達には、あの味は忘れられないこととございませう。思ひきつた値段で、人集め人氣集めの政策として、よい品物を、またと得られない

値段で賣りさばくのですから、そのよい掘り出し物に當りつけば、それこそほんたうの買物上手と申されませう。

ですからデパートの上手な買物は、かうした機會、棚ざらへ、藏拂ひ等を目かけて、ほんたうに自分が現在必要である品物、又これこれの時に必要であると豫想のついた品物を心覺えして、出かけて買ひ求めることが得策であります。

どんなに安くとも、どんなに品物がよくとも、今自分の家で必要でない品物、折角買ひ置いても使ひやうのない品物を山のやうに買ひ込んで得意然としてゐても、これは買物上手と申されません。足にしびれを切らして、一日がかりで買つたものを、一年も二年も鐘筒の底や行李の底に仕舞ひ込んで置くのもよいとして、品物によつては蟲にさんざん蝕はれたり、變色をしてしまつて、そのまゝ使はれぬやうになります。これも喧嘩ごしで買ひ込んだ物かと思ひますと、情ない感じがいたします。

矢張り上手に買つた品物を、上手に使ふといふ處まで参りませんでは、眞の買物上手とは申されません。

### 専門店や小賣店の買物

特に吟味した品物とか、特殊の趣味の物を買はうといったしますと、矢張り専門店で買ひ求めることがよいと思ひます。殊にその品物について充分な鑑識眼を持たないやうな場合は、殊更信用ある専門店で安心して、買ひ求めること。

「小賣店の買物」小賣店でする買物は比較的手輕に、安直に出来ることであります。小賣店で僅かの品物を買ふのに、わざわざ遠方まで出かける人もありますが、一寸した買物には小賣店はとても重寶でございします。

殊に毎日のお総菜や日用品位は、小賣店で結構でございします。「なるべく一つの店で永く」この言葉は商人の側からもうれしいことでもありませうし、又買ふ側からも安心して買はれますので、この店なら信用して買ふことが出来ると、見當のついた店からなるべく引き續いて買ふことは、お互の得策であります。然し永い間買つてやつてよい店ときめまず迄には、方々の同一の品物を賣る商店と、値段や品物について、

十分に吟味し「よい品物を安く賣る親切な店」を探がし求めてから定めることが大切であります。

品物の選擇を自由にさせ、よい品物はけふはともお品が宜しうございしますとか、今日は餘りお品がよくありませんから、こちらのお品でお間に合せて頂きましては等と、賣る人の立場からでなく、使ふ人の立場から考へてくれるやうな店はよい店でございします。

「市場の買物」都市と名のつくやうな處では、立派な組織で澤山の市場が設けられてをりますことは、周知のことですが、この市場を上手に利用いたしますと、日用品の買ひ出しは非常に經濟であります。

市場の品物は比較的、品質數量等が正確であります。

殊にこの頃の市場には、買つた物を自由に秤臺にのせて、試めしをすることの出来るやうな設備もございまして重寶であります。

「市場の特賣デーを利用すること」同じ品物でも特賣の日には、二錢、三錢はきつと

お安くなつてをります。ですからこの日を利用して必要である品物で、凡その見越しのつく物は、その日を利用して買ふことであります。

例へば、おとし紙の様な物でしたら、一箇月にどれだけ凡そ入用であるかといふことは解つてをりますから、特賣の日を待ちかまへて、買つて置きますと、塵紙だけでも一ヶ月に十銭や二十銭の節約が出来ます。

同じお魚でも、特賣日だからと申して、皆全部がお安いといふことではありませんから、つまり赤札つきの物を買ふことであります。

「品物によつては買ひ置きは不経済です。」

多くあれば澤山あるといふ氣持で、いくらでも制限なしに食べてしまふやうなお菓子類は、一銭二銭安いからと申して、餘り餘分に買ひ込むことは不経済であります。ですから品物によつて、やたらに特賣品を買ひ込んではありません。

## 大道の買物

「猫にやるのですから、そのアラを五錢下さい」と仰言るやうな氣取りやの奥様には、とてもこんな大道商人からお買ひになる勇氣はございませんでせう。

勿論相當金目の品物は、こんな處で買ふ馬鹿もありません。けれどもそれはそれは随分思ひきつた見切りをいたします。そこを目がけて勇敢に買ひ求めることを心掛けねばなりません。

あの腰紐三本十銭等といふやうな品物、絹紬やメリンスの有合せ布を巧に使つて、ああして賣つてをるものなどは、それを自宅で拵へる時間と手数を考へますと、とてもお安いものです。

又裏地物（新モスやちくさ裏）等も、品物のお値段が大體相場がありますのに、それよりも随分安く賣揃いてゐることがございます。あんな賣物は、あの場合の隅りとても申しませうか、十銭二十銭その物で損をしても、お客があんなにあの品物が安いのですもの、この品物も安いに違ひないと思ひ込んで、眞實の品物の價值を考へないで「それ下さい」等と思はず買つてしまふのであります。

この心理を商人はちやんと捕へて、かうした危険と犠牲とを拂つて賣りさばるのであります。

あの大道商人の代表的なものとされてゐるバナナの叩き賣りを見てをりますと、實に不思議のやうな氣がいたします。

高級果實店でお體裁を作つて、そのバナナ五百匁下さいなど申しますと、きつと時節にもよりますが、十七八匁とられます。それは上等品で四日や五日おいても差支ないやうな品物に違ひありません、しかしその用途によつては、こんな上等な品物でなくともよいのであります。例へば今直ぐ食べるやうな場合には、そんな美事な品物でなくとも、殆ど半値で買はれる大道商人の品物で澤山なのであります。

ですから用途の如何によつては、大道商人の品物でも結構なのであります。

又荒物等でも、荒物やさんから買ふと、一品十匁位の品物でも、大道商では二品十五匁位で同じ品物が買はれます。若し是非入用な品物が二品あるやうな場合には、かうした買物の仕方上手と申させよう。

しかし二品十五匁は安いと申して、入用でない品物を二品十五匁で買つたのでは、結局一品十五匁で買つたと等しいことになりますから、それは少しも上手な買物とは申されません。

### 無理買は破産の原

「見え坊になる勿れ」「その十五匁の肉頂戴、犬にやるのですから」等随分お體裁を作つた買物をされる奥様も珍らしくありません。自分が自分の財布から出して買ふ買物に何の遠慮、何のお體裁がいりませう。

よく市場等の買物にしても、折角お魚やさんの店先に立つて、何にしようかと頭をひねつてをられますときに、一寸挨拶でもしようものなら、買物がすんだやうなふりをして、買はふと思ふものも買はずに立ち去つてしまはれるやうな方もよく見受けま

す。

一概に見え坊とは申されませんが、餘り僅かの物を買ふのを、體裁が悪いと思ふ心

も手傳つてゐると思はれます。

自分はこの品が安いと思つて買はうとした品物を、人が見てゐたからとて止して歸る必要はないのであります。自分の家に相當した品物を、相當した分量だけ買つて來ればよいのであります。

一つや二つでは恥かしいから、少し餘分だけれども、まあ買つて置かう等と、餘計な買物をされることはありませんでせうか。

「奥様何かほしいと思はれる物がありませんか、お嬢様は？」等尋ねてごらん下さい。

「あの何もありませんが、狐の襟巻がほしう御座います。」と

猫も杓子も狐フアンになつてしまひませう。「あそこの誰々さんは、今度貂の襟巻を買つて貰はれました、お母さん私にもお隣の何々さんのやうな襟巻買つて頂戴」

等おねだりをされると、家に不相應だと思ひながら、矢張りお母様も相當虚榮心もあつて、無理と思ひながらも、遂々娘の要求を入れてやることになります。

こんな買物が一つや二つのときはまだよいとして、屢々こんな事になりましたら一家の經濟は減茶々々々になります。

年の暮に借金で頭が廻らぬと申しますが、頸どころか身動きも出来なくなつて、大きな借金の遺産を残すやうな仕末になるのであります。ですから自分の家に不相當、不釣合だと思ひましたら、斷然買はないだけの勇氣と決斷力があつてほしいものでござります。

### 現金買ひの得

昔から「無い袖は振れぬ」とか申しますが、懷が淋しくては、さあ買ひませうと、手を出すわけには參りません。

咽喉から手が出さうに欲しい物でも、まあ仕方がないと、あきらめるのが人情の常でございます。

經濟の上手な人は、毎日の財布の中の小遣の高を定めて、それ以上の現金を持つて

行かぬさうですが、これも一つの方法でございます。餘分の金を持つて居りますと、見る物が欲しくなつて、あれもこれもいろいろな欲しい物だらけになつて仕舞ひます。

「現金を持たなくては、ほしい物も買はれぬ」といつた處が現金買でございます。

現金買の實行は堅實な、家庭經濟の基礎となります。重寶主義や、面倒臭がりやさんや見え坊のために、改良しようと一旦決心した現金買も、いつの間にか破壊されて、またしても御用聞きまかせになりやすいのでございます。それも全部一度でなく、一寸お味噌がきれたから買ひに行かうと思つてゐる處に、酒屋が御用聞きに来て

「今日は何か御用ございませんか、お宅様では、此頃は少しも御用をお出し頂けませぬので、物足りなく思つてをります。どうぞ何かおいひつけ下さいませ、何でもどんなに少しでもお届け申上げますから」等と、お世辭でもいはれますと、折角の決心も鈍つてさういはれるのですもの、まあ一度位とつてやりませうなどといふことになつて「ではお酒やさんお味噌を百匁」等と頼みます、そして注文品を届けられますと、ではお金をと渡さうとしても

「お後で結構でございます」

等と申してその都度お金なんか持つて行きます。

そんな事が二、三回も続きますと、ねお酒屋さん、こんなにちよいちよいお借りしてゐると忘れてしまひますから、やつぱり帳面を一つ作つて貰ひませうかと、こちらから注文して、遂々御用聞きをするやうになつてしまひます。商人のその戦術に甘く引つかかつて、しまふのであります。これにかからぬやうに一度定めた現金買を實行するには、自制心を強く働かせて、少々の誘惑に引つかからぬやうにいたしませう。

現金買は持たなくては買へぬといふ、一つの大きな鍵を持つて居りますから、この鍵があるために無駄な買物はせぬ、つまり豫定以外の買物をしないことになつて、月末に豫算超過等の悲鳴を揚げるのがないのでございます。

遊學中の學生さん達が、國許から學費の届いた當座は、ウンと御馳走を食べてお腹を肥やし、いざ月末となると至つて心細い態で、けふはパン五錢で凌がう、糖芋五錢か等情けない事になります、一家を背負ふ主婦がこんなだらしないことではなり

ません。

お金のあるときは、家族にうんと御馳走をして、なくなつた時にはけふは澤庵とお味噌汁で我慢して下さい、お母さんの財布が軽くなつたから等、家族にまで粗食を強ふるやうなことであつてはなりません。

ですから初めからちやんと日割で一日のお小遣を大凡定め、その日その日の豫定額を超過しないやうにがつしりとした豫算のもとで、主婦として又消費者としての立場を立派に切りぬけて行きたいものであります。

### 掛買の損

掛買の損得なんて述べたてただけ野暮であります。ちやんと承知してゐながら、實行出来ぬのが人間の弱點でございます。

「掛買にするだけ合理的の借金になる」

この借金を平氣でといふよりも、氣づかずに過されるお大名式の奥様もございませ

う。供給者の立場からは、掛買のお得意の増すことが喜ばれませう。

「世の中は相もち」

と申しましても、まづ自からの生計が不如意で人様の御厄介になるやうな状態では、どうして他人様の得とか益とか申すことまで考へを及ぼすことが出来ませう。まづ自からを安全にさせることが第一の急務であります。

それであるべく買物も現金買でなくてはなりません、一々現金買では自他共に繁雜で、到底實行出来にくい様な品物もございます。

例へば、毎日配達される牛乳代を、一々その日その日に拂ふことも恐らく實行出来ませう。またこんな一定料金の品物は、掛買とか、現金買とか申す品物の範圍外の物でございませう。掛買だから牛乳を餘分に取らせう等と申すこともありません。

品物のうちで掛買を最も警戒しなければならぬのは、衣類の掛買であります。

人間の持つ欲望にも色々ございませう。食べる欲、着る欲、住居に對する欲、娯樂を求める欲等數へきれぬ欲がございますが、その中でも食べる事等は、お腹が一つば

いになれば、どんなに御馳走が眼の前に出されても、食べようとは思ひませんから、欲望も起らぬのでありますが、着る物に對する欲望は、塞くなければよい、體裁さへ悪くなければよい等といふ程度ではなく殆んど限りがありません。

私はこんな趣味ですからとか、こんなのでなくては私に似合はぬ等いひ出しますと際限がありません。しかもそれが、現金買なら兎に角有るだけしかないのですから、どんなに買ひたくとも、それ以上買ふ譯にまゐりません。この衣類を自由に掛買に出來るとしましたらどうでせう、それこそ大變です。次から次へと欲しいものだらけになつて、あれも格安だから、これも上品だから等と皆抱へ込んでしまひます。

そしていざ月末の支拂といふ段になつて、さあこんなに買つてしまつてどうしませう、大變です。他の支拂ひの分までも殆ど着物のために、出してしまはなければならぬやうな破目にならぬとも限りません。

こんな事が月々ございませうものならそれこそ大變、一家の經濟は忽ち崩れ出してしまうとめどもなくなりします。

「京の着倒れ、どこの食ひ倒れ」等申しますが、食べて身代を失ふといふことは餘りございますまい。つまり食べることは際限があります。しかし着道樂等になりますと際限がありません。掛買で着道樂などをしたら、有り餘る財産だつて忽ち破産の嘆きを見るやうになります。

### 欲しい物も三日待て

「あゝあそこの飾窓に素敵柄のコートがあつた、私に丁度よい柄だし、お値段も格好だし」等一人ごとをいひながら二十分も三十分も眺めてゐますと、もう欲しくて欲しくてたまりません。こんな時財布にややゆつたりお金でも持つてゐようものなら、遂に誘惑されて了ふのが普通であります。然しその欲しいなと思つた瞬間に、グットその欲求を押へて「まあ今暫らく待ちませう」とその欲求を制することでございます。そうかうしてゐるうちに「私にはまだあのコートが着られる、今急いで買はなくとも、あれが着られなくなつてからとか、又あのコートを買はないで、今債券を賣り出

してゐるから、あれを買はう、抽籤もあるし」  
等と次から次へと、この待つ三日の間に色々經濟思想が動いて来て、ほしいと思ふ物も欲しくなくなります。

何としても飛びつく思ひで買ひ込んだものには、ややもすると飽きが来て、嫌氣がさして來ることがよくございます。

着物一枚にしても、思ひついて直ぐ買はないで、それが必要か否かをよく判斷し、更にどんな品物がその用途に一番適してゐるかどうかを調べた上で、品質のよい格安の品物を見つかつたときに買ふだけの準備をして置くに限ります。

欲しいと思つても、一日待ち二日待ちしてゐるうちに、それが不必要の品物となることがよくございます。そして買つた品物はほんたうになければならぬ品物、即ち熟考精選された品物であつてほしいものです。

「今お金がはいつた、これで何を買はう」  
と考へてはいけません。これに幾ら足して幾らになるかと、先づ足すお金の事を考へ

ることが大切であります。こんな調子で萬事進みますと、餘りほしいものだらけでな  
くなります。

### 三、買物の秘訣

「流行を追はずに、自分に似合ふ物を選ぶこと」

それが先づ第一です。今年は斜縞か、小紋かなど、年々の流行ばかりを氣にしては品物のよい安い物等を買ふことは出来ません。少し位流行遅れでも自分に似合ふ物であつたら、さうした物を買ふことです。例へば去年陳列會へ出したが、一寸風變りで賣れなかつたとか、一寸汚點があるとか染むらがあるとかといふやうな品物が、相當あります。これらの品物は割合よくて、お値段が恰好であります。

### 掘出し物の買ひ方

店の戸の開くの待つ位に出かけること、格安物の賣出し等といへばきつと押し合

ひ、へし合の混雜と極つてをります。こんな處へ参りましたのでは、この混雜を見た  
だけで頭が痛くなつて色も柄も見分けがつかなくなりまゝ。

殊に色物は電氣の光だけでは、不安ですから必ず太陽の光に品物をあててから買ふ  
ことです。ですからなるべく早くから出かけてゆつくりと心靜かに探して買ふに限り  
ます。そしてまた「家を出る前に大體の案をたてて出かけること」です。けふはどう  
いふ物を買はふといふ目算をたてて、けふは何々を買つて來ようと、心覺えといふよ  
りは寧ろ書きとめて出かけることです。

「流行品を買はうとする人は、見切り品を買はないこと」

流行品を買はうと思はれる方は、それを見切品の中から買ふ事はよしませう、必ず  
失敗します。見切品は即ち見切品ですから、流行の柄や色を備へてゐながら見切品で  
あれば、どこか品物に大きな缺點のあるのは勿論でございます。

どんな大商店でも、現在の流行品で無難なものをそんなに思ひきつて見切りはしな  
いのであります。

また見切品の賣場には、中邊のところが、ぐつと下の處と、大抵ありますが掘出し  
物は中邊のところにあるやうです。

「何軒も見て歩くこと」

一枚の羽織を求めますにも、前々から豫算をたててそれを買ふだけの剩餘金を懐  
にして、外出した度に心掛けてゐる事でございます。サア今羽織が入用だから買ひに  
行かうと思ひましても、なかなか直ぐによい物が手に這入りません。何軒でも見て歩  
いて、これならばと思つた店で一番氣に入つた品物を買ひ求めることでございます。

かうして吟味して買つた品物であれば、少し位古くなつても流行おくれでも、飽きま  
せんので長い間着られますから結局上手な買物といはれます。

「夏物は夏の終りに、冬物は冬の終りに」先きを見越して品物を買ひ込む事でありま  
す。店でも一年、半年と品物を持越すことの不利を考へて、大見切大棚ざらへ等と名  
目をつけて賣拂ふのですから、そこをねらつて買ひますと、思はぬよいものが安く手  
に入ります。

「各デパートや各商店の特徴を知ること」同じデパートでもそれぞれ特徴がございませうから、求める品により店を選択することが何より大切でございませう。

例へばメリンス等はデパートといった處で買ふよりも、矢張りメリンス専門の店で品物、品質、柄等凡ての點を吟味して買ひますと、案外よい物が買はれます。又鎔仙や大島又は半襟といった物も、特種の好みをお持ちの方は、矢張り専門店を選ばれた方が宜しうございませう。

「白生地物は問屋の傳手を求めて」柄とか色とかに餘り關係のない白生地物を、二反三反とまとめて買ふやうなときは、傳手を求めて問屋から買ひますと、それはそれは品のよい物がお安く手に這入ります。

### 纏つた買物の仕方

御婚禮のお仕度とか、お祝着とかまとまつた大小の買物をするときは、先づ豫算をたてて、それを高價な品物から先づ割りあてます。婚禮仕度でしたら、お振袖に何程、

帶の豫算はいくらといった風にして、入用品の細かい物までかき連ね、これはどこで、又デパートでしたら、あそこ何階では何をと、凡そ自分の解る範圍で買ふ場所の目當までして出かけます。これ程までに細かい注意を以て出かければ上に行つたり下に降りたり幾度も足を運ばないですみます。

専門店でしたら二、三軒はあたつて品質や價段を比較研究し、何處の店で買はふと準備することが必要であります。

そして一軒の店で品物の氣に入つた物のない時はいつまでもそこで時間をつぶして仕舞ふよりも、他の店で探した方が時間を空費しないで宜しうございませう。

「處分品店の傳手を求めて買ふ」のもよい方法であります。大都會には處分品のみを集めて商賣する店もございまして、その品物はなかなか恰好のものがございませう。纏つた買物の時はこんな店に傳手を求めて、自分の要求を大凡話して、これこれの物が欲しいと申込んで置きますと、その向きの品物を探がして來てくれまして、デパートや他の店で買ふよりも、とてもお安く買はれます。しかし客呼びのためにする處分

品を賣るとか店じまひにつき等の廣告に迷はされないことが大切でございます。

安い安いにつられて財布の口をゆるめてはいけません。はんば物大棚ざらへ、よりどり市等の廣告が季節の終り毎に、大デパートを初め小賣商店でも客呼びに大きな宣傳をいたします。

是非必要なものでしたら、こんな時を目がけて買物に出かけるのがよいのですが、兎角餘分なお金を持ち過ぎてゐたり、ちよつとうつかりしますと、安い安いにつひ釣りこまれて、あれもこれもと何時使ふかわかりもしないやうな不要品をどつさり買ひ込んでしまふのが常でございます。こんな所へ参りますときは、殊に財布の口をつかりしめてうつかりゆるめぬ覺悟が必要でございます。

#### 四、日用品の買ひ方

はしり物高く買はれますく喰ひ

安く買ひ美味しく喰べる主婦の智慧

細かくても毎日の日用品の買ひ方が上手と下手では、一家の經濟に大きな影響を來たします。たつた一錢と思ふ少額も積り積ればなかなか侮り難い額になることは御承知の通りであります。

お臺所から費える一錢はほんたうに、大切でございます。

安い物を上手に調理しておいしく食べさせること、これが主婦の手腕であります。

或方に家庭圓滿の秘訣はどこにございませうと、お尋ねいたしましたところ、その答は意外にも

「色々むづかしい事もございませう、けれど、要するにうまい物を腹一つばい食はしておくことです」と申されました。一理のある言でございます。

主婦が上手に經濟をとり、美味しい物を家人に食べさせることがどんなに大切であるかは申すまでもありません。

主婦の調理が家人の喜び、樂しみの的であれば歸へりがけに「一寸うまい臭がする、一寸寄つて行かう」等といふ様な氣持を、御主人やお子様方

に持たせないで済みます。

「家に歸つて早くお母さんの手料理に舌つづみを打ちませう。けふは何の御馳走かしら」

など歸りの途すがら家のご馳走を思ひ浮べつつ、愉快に家路に急がれるのでございませう。

かうして三百六十五日の食膳を、楽しみを中心とされるやうに仕向ける主婦の手腕も並大抵ではありません。

切り詰めた経済で安い物を求め、美味しく調理するには餘程買物上手でなくてはなりません。

### 買ひ置きは不経済

#### 「食料品の経済な買ひ方」

先づ主婦は新聞の家庭欄や経済欄に注意を拂ふことを忘れてはなりません。

小松菜が一把いくらするか、大根が幾らかさへもはつきり認識出来ない様では、毎日のお蔬菜だつてよい品物をお安く買ふなどは望めません。そしてまた経済欄等は見つけませんと、億劫の様に思はれますが見つければ自然に興味が出來て參ります。

「品物の旬を知つて買ふこと」今は何が旬であるとかといふくらは心得てゐなくてはなりません。蔬菜類や魚類等旬の物は味もよく、お安く新鮮なものが豊富に手に入りますから出来るだけ旬のものを買ふことであります。お魚やを覗きますと鮭の端切や鰯の尾等といったものが山の様につんで皿盛りになつてをります。

「一皿十錢ですよ、お安いですよ奥様お持ちになりませんか」

といはれて赤くなりさつさと去つてしまふ様な奥様も珍らしくありません。アラ一皿買ふのに何の見栄や體裁を考へることがいりませうか。アラ一皿だつて平氣で買ふだけの勇氣がほしいものでございます。「切身の魚は不経済です。」四切、五切とまとめて買ふやうな家族でしたらそんな切身の魚をいつも求めないで一尾とか半身とかまとめて買ひ、またお刺身等でも、幾人前といふ風に買ふより矢張り半身、片身といった

風に買ひますと、皮、骨、アラ等の副産物が出て、これも翌日のお総菜に結構用ひられます。

かうした心掛であれば榮養價たつぷりのおいしい御馳走が出来ます。肉類もロースや上肉ばかりがよいものではありません。煮込みや、薩摩汁といった料理には上肉やロースばかり必要ではありません、細切でも三等肉位でも煮方や、料理の方法で上肉以上に食べられます。勿論ビフテキやカツレツにかうした肉では困りますが用途によつてはお安い肉で結構なのでございます。

「お野菜の買ひ置きは不必要」都會の生活者には殊に傷み易い野菜物の買ひ置きは全く必要です。買ひ置きがありますとつひ無駄に使つたり、腐らしたりしてしまつていくら安い時に買ひ込んでも結局不經濟です。

一把四錢、三把十錢等申されますとつひ三把買つてしまひます。そして一度に使ひきれなくて、残り二把は茹でて腐らしたり、そのまゝ赤葉にして終に塵埃箱の中に放り込んで仕舞ふといった仕末になりますと、結局一把買ふ方が經濟なのであります。

一本五錢三本十錢等といふ納豆なども手を出し易いものです。

保存の出来るものは、その旬に買ひ込んで丁寧に藏つておくのもよいことです。例へば、馬鈴薯等は安い時期に或期間に必要な分量を見越して買ひ込み、砂にでもいけて置きますと比較的經濟であります。

「買ひ出しの潮時を見計ふこと」買ひ出しにも潮時といふものがございます。市場等でも時間によつて餘程違ひます。餘りお客の混雑のときは品物をゆつくり見ることも出来ませんし、目方等も忙がしさにまぎれて、不正確になることも多いやうですから餘り人ごみの時を避けた方が宜しいでございます。しかし餘り早くてはまたいけません。その日の荷物が運入らぬうちだと昨日の残りの物を渡されたりしますから。

「買物には小錢を用意して」細いお金を持ちませんとどうも細かい買物が面倒です。

三錢でよいものを五錢の白銅一つ出して五錢買つて仕舞ふといふやうなことはありがちなことでございます。殊に女中等に買物をさせる時などは、かうした細かいことにまで注意しませんとちよつとのことのやうですが違ひます。

「果物もかうして」堂々と店を張る果實店やデパートの食料部ですと、いろいろな等の品物もありませうがなかなかお値段も相當でございます。

店先きに並ぶ客引きの品、サービスピンのうちには、少し箱づれが出来たり一寸損傷が出来た位の林檎や梨等も、半價どころか四分の一位の値段で買はれることが往々ございます。御進物なら兎も角食後に食べる子供達に與へる位のものでしたら、何も體裁を作つて態々高いものを買ふ必要はありません。勿論バナナ等の傷んで危険な物は兎も角ですが、さうでない物はかうしたサービスピンを買ふことです。

お總菜用の饈飾等は少々位キズがあつたり先がかけたりしても差支ありませんから大きな店でこんな物を買つて用ひますと徳用です。

お米等は配達の途中で時折検査に合ふことがありますがから割合正確でせうが、お味噌とかお芋とかいつたものは、氣づかぬうちに大きな損をすることがあるかも知れませんから、各家庭でも臺秤位は用意して、買物をその都度試してみる位であつてほしいものでございます。

### 家具什器の買ひ方

家具や什器に限りませんが、産地によつて特徴がありますからそれぞれ用途によつて買ふ場合の注意が必要であります。

「陶器類の買ひ方」上手に買ふには先づその品物の善惡を判断しなければなりません。判断が間違つて悪い物をよいと思つて買ひ込むやうでは買物上手とは申されません。概して瀬戸物は糸底で凡そ解ります。上等品は糸底がするすると滑らかですが、粗惡な品物は糸底がざらざらしてゐます。また日常用品としてはなるべく薄手の物の方が丈夫で、分厚の物は比較的弱いやうです。産地によつてそれぞれ特徴があります。即ち打てばカンカン金屬性の音を出す瀬戸焼、割合に軟かい有田焼、上質の京都焼、近頃流行の赤澤焼等、各々の焼き方による特徴もございますが、その趣きに相當するものを選ぶことでございます。

「盃や茶碗」は縁の分厚いのは呑み難いばかりでなく、體裁も惡うございますから、

なるべく薄手の物を買いませう。

「火鉢は白地物」が何と申しても一番丈夫で、次がなまこ、第三が素焼といった順序でございます。日常用の物としては丈夫が先づ第一條件でございます。

「漆器類は」使ひこめば使ふほど美しくなつてしかも丈夫なのは石川縣の輪島塗でございます。殊にお椀等にはよろしいです。またお値段のお安いのは會津産の漆器や木曾産の漆器で、一般家庭用にふさはしい物でございます。何れにしても少し纏めて買ふ場合には、大きな専門店に参りまして、何處産かを確かめてから買ふ方が安全です。「椅子の買ひ方」先づ押して見てがさがさ音のするやうなものは上等品ではありません。こんな椅子は芯に藁を入れた下等品であります。またスプリングの餘り堅いものは中の藁やファイバー等を押つけてスプリングが突出して來ますからいけません。クツシヨンの布地は日本間に使ふ物なら、なるべく落ちついた澁いものが似合ひますし、純洋風に用ふるものでしたら、やや華美な色合の物を選択いたします。

「刃物の買ひ方」庖刀はされるものと定つてをりまして、質の悪いもの等知らずに

買ひますと直ぐに切れなくなつてしまひます。他の刃物に合せて見て喰ひ込むやうなのは、刃金が堅いから先づよいとして、なるべく刃金の堅い物と、コミ（柄にさす部分）のしつかりしてゐるものを選びませんと、直ぐ手許からとれてしまひます。

鉄類は鑄物と打物の區別を見分けて買ふことです。安いからとて鑄物の鉄を求めたりしますと。直ぐ切れなくなつてしまひます。鑄物で出來てゐる物は多少なりともぶつぶつがあります。打物には絶対にこんなことはありません。なるべくぶつぶつのない物を求めます。

「竹製の家具」弾力のあるものを選ぶことが先づ第一でございます。良品は竹の皮で出來てゐますから、弾力があつて丈夫ですが、安物は實七分皮三分位ですから、値段の安い代りに直ぐに壞れます。

## 國産品愛用

國産獎勵とか輸入防止とかやかましく申されてをりますが、持つたお金の使ひ道に

困られる御連中が虚榮のためか、はたまた、眞に舶來品の愛用者か、かういふ方がなかなか多いのをごさいます。「舶來を買つて我が家と國を賣り」とか申します。舶來品の跋扈は我が家の經濟力を弱め、國の繁榮を阻止いたします。眞に心ある人達の考へねばならぬ事柄でございます。

眞に品物の價値を知つて舶來品を求めるのなら兎も角、レツテルや包紙に誘惑されて三十錢、五十錢で間に合ふ處を、幾圓かを出して高價品を買ひ得々としてゐる人は或意味での國を賣る者と申さなくてはなりません。國產品の眞價を求めて大いに愛用いたしませう。

### 有利な買物は増收と同じ

薪とか炭とか石炭といった燃料品は、その需要の時期によつて價に大變高い安いがございます。それで時期を見て需要に先だつて凡そ使ふ一年分を買ひ込んで置くと大變經濟がとれます。

例へば薪とか炭等でしたら八月の末か九月に良質の品物を出す産地に傳手を求めて四、五軒のお宅と組んで大元割から買ひ込んで置きますととても有利です。冬期入用の季節になつて買へば、一俵四買目物で一圓二、三十錢いたしますものを、需要期に先だつて購入いたしますと十貫目二圓四、五十錢位で買へるといふやうな勘定になります。

つまりこの値段の差だけ得をする譯で見やうによつては消極的な増收といふことが出來ます。尤もこの折角の増收も少し儲かつたからこれで何々を買はうなどとまた無用の物を買ひ込んでしまつたのでは、何の効果もありませんけれど、少しでもこの剩餘金の利用が出來れば、この有利な買物が増收と見なされます。

「上手な柄の選び方」自分の趣味とか嗜好がはつきりしてゐて私にはかういふ柄や色がよいとわかつてをりますれば、デパート等へ参りましても氣に入つた物をさつさと買はれますが、さうでないとなかなか判斷に苦しめられ、あれがよい、これがよい等と迷ひに迷つて幾時間たつても買はれないものです。こんな時には店員に一寸相談を

かける「私にこれ似合ひますか」と尋ねますと、お年よりじみ過ぎると思はれる柄を選ばれましたときには、それは少しおちみです今少しお派手な物をと店員も申しよいさうですが、反對にお年よりとても派手な物を選ばれた場合には、店員もそれは少しお派手過ぎますといふことはいひ難いのであります。

こんな時には、幾歳位の背の高いとか、低いとか申して選んで貰ひますと店員も遠慮なくほんたうにその恰好のものを選んでくれますから、こんな調子で柄えらびを頼みますと、案外よく似合ふ物を手にすることが出来ます。

×

これを要するに買物はたゞ投げやりに不用意に買はず、何か一つのものを作るといふ氣持で、頭を働かせ研究的な態度をもつてすれば、自ら上手になれるでせう。

(終)

昭和十一年二月二十五日印刷  
昭和十一年三月一日發行

婦人講座 第七十二篇  
定價金十五錢(送料二錢)  
一ヶ年金一圓五十錢(送料共)

# 手下手上の物買

## 製複許不

|    |                |
|----|----------------|
| 著者 | 大妻コタカ          |
| 編輯 | 財団法人社會教育協會代表理事 |
| 發行 | 小松謙助           |
| 印刷 | 東京市牛込區霞町七番地    |

發行所

東京市小石川區  
白山御殿町二七七

財団法人

社會教育協會

電話 小石川七五〇九番  
振替口座東京二一八三番

婦人講座 第七十二篇

